

近代日本におけるリレーションシップ・バンキング

法政大学 霧見誠良

このところリレーションシップ・バンキングに対する関心が高まっている。本報告のめざすところは、近代日本におけるリレーションシップ・バンキングの展開を、銀行の市場構造とのかかわりで概観するところにある。

欧米では、リレーションシップ・バンキングはトランザクション・バンキングと対で語られることが多い。しかしながら日本の銀行は、ほとんどリレーションシップ・バンキングの歴史であった。

銀行と顧客との関係は、人々の経済圏＝生活圏によって多様である。経済の発展とともに人々の経済圏は広がり、それに応じて銀行の営業圏も広がり、銀行の顧客との関係も変化する。一般に営業圏が広がるにつれ、顧客との関係も濃密なものから希薄なものへ変化する。リレーションシップ・バンキングからトランザクション・バンキングへの転換も、その一齣に過ぎない。

銀行の営業圏の広がり、その本支店ネットワークに現れる。銀行の本支店ネットワークのありようは、銀行市場の構造を示す。市場構造の変貌は、銀行合併、集中によって惹き起こされる。顧客関係の変化は、銀行合併—市場構造の変貌—銀行の本支店ネットワークの変容とともに生じる。

本報告は、このようなシエーマから、日本におけるリレーションシップ・バンキングの展開を概観することで、現在の問題に対する示唆を得たい。